

しまねっ湖



トウヨシノボリ *Rhinogobius sp. OR*

全長7cm程度のヨシノボリで、産卵期のオスの尾びれの付け根が橙色になるのが特徴です。ゴビウス周辺では斐伊川などに生息しています。産卵期は5月～7月上旬で、石の下などに産卵し、オスはふ化するまで卵を保護します。

(逢坂香織)



No. **76**
2023. Summer

CONTENTS

特別展報告	2
ゴビウスのなかまたち	3
みんなでのしむ生きものガイド / イベント報告	4

フクいっぱい! ぷくぷくワールド

3月15日～5月8日に、第53回特別展「フクいっぱい! ぷくぷくワールド」を開催しました。今回の特別展では、



会場全体のようす

ぷくぷくした見た目から水族館でも人気のあるフグのなかま11種類を「形」、「大きさ」、「模様」の3つのコーナーに分けて紹介しました。

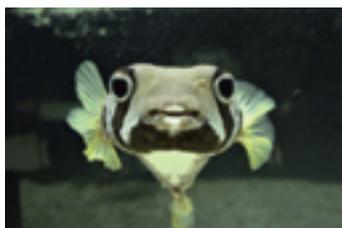
「形」のコーナーでは、ずんぐり丸い形をしたトラフグや体の形が四角いハコフグ、体の前方と後方に長い棘を持つコンゴウフグ、体が棘に覆われたハリセンポンを展示しました。



ハリセンポン

「大きさ」のコーナーでは、成長すると全長70cm以上になるインガキフグやモヨウフグを展示し、その隣に世界最小の淡水フグで知られるアベニーパファーを展示しました。

「模様」のコーナーでは、背中の模様が人の顔に見えることが名前の由来になっているヒトヅラハリセンポンや腹部の模様がさざなみ状になっているサザナミフグ、黄緑色の背中に黒色の斑点が特徴的なミドリフグを展示しました。期間中、フグたちは愛嬌のある正面顔を見せながら、ゆっくり泳いでおり、お客様はその姿をカメラに収めておられました。



ヒトヅラハリセンポン

また、今回の特別展ではフグ目最大種であるマンボウや腹部をうちわ状に広げることができるウチワフグ、体を大きく膨らませたトラフグやインガキフグなどの剥製標本を展示しました。今回の展示をきっかけにマンボウがフグのなかまだと、初めて知った方も多かったようです。



剥製標本の展示

毎週土、日、祝日にあそびっ湖まなびっ湖ひろばで開催している「飼育係のとおきの話」では、特別展期間中は内容を特別展バージョンに変更し、ハコフグやハリセンポンの解説、エサやりと剥製標本の解説ガイドを行いました。

関連イベントとして、クロスワードクイズのイベントを開催し、正解者にはオリジナルのフグのカンバッチをプレゼントしました。また、



クロスワードクイズのイベント開催ゴールデンウィークの5日間は、フグのヨーヨーを作るイベントを開催し、たくさんの方に参加していただきました。

お客様の関心がさらに高まるきっかけになればうれしいです。

(森永和希)

展示協力:

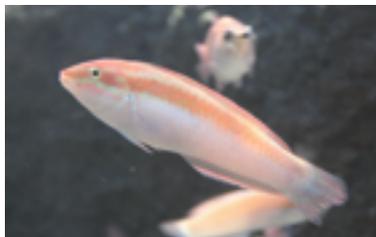
いおワールドかごしま水族館、海とくらしの史料館、下関市立しものせき水族館、島根県薬事衛生課、島根県立しまね海洋館(敬称略、順不同)



ゴビウスのなかまたち

汽水のなかま ホンベラ

ゴビウスで人気の水槽のひとつにヘルメット水槽があります。境界水道や日本海で見られる魚を展示しており、さまざま



ホンベラ

な種類の魚に交じってホンベラがいます。

大きさは10cm程度で、体は細長く、うすいピンク色をしています。水槽内では、底の近くや岩の周辺をまるで



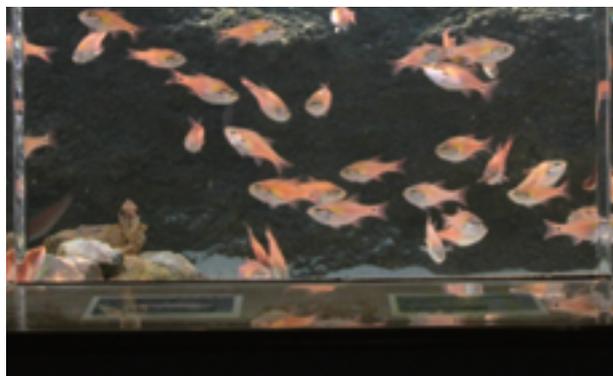
ホンベラが泳ぐ昼のヘルメット水槽

舞っているかのようにひらひらと泳いでいます。

日中は、ほかの魚たちと一緒にたくさん姿を見ることができですが、日が沈むと、水槽の中の様子が一変し、ホンベラの姿だけが見えなくなります。その理由は、夜になると、砂の中に潜って休むからです。

少しだけ静かになった水槽を見ると、飼育スタッフの一日の仕事も終わっていくのだと感じます。

(田久和剛史)



ホンベラが見えなくなった夜のヘルメット水槽

淡水のなかま ルリヨシノボリ

その名の通り、ほほに瑠璃色の小斑点があるヨシノボリのなかまです。腹びれは吸盤状になっているため、川底の石などに張り付くことができます。雑食性で、ゴビウスでは、赤虫をエサに与えています。エサを与えてしばらくしてから水槽を見ると、今にも破裂しそうなくらいパンパンに膨らんだお腹で水槽の壁面に張り付いている可愛らしい姿を見ることができます。

ルリヨシノボリは、改訂しまねレッドデータブック2014で絶滅危惧Ⅱ類に選定されており、島根県では限られた場所にしか生息していません。そのため、ゴビウスではルリヨシノボリの繁殖に取り組んでいます。現在、40番水槽で展示している個体は繁殖させて増やしたものです。

繁殖をさせるには、オスとメスの相性を見ながらペアリングをしなければなりません。みなさんはルリヨシノボリのオスとメスの見分け方を知っていますか？

私は今年初めて繁殖担当になり、毎日、ルリヨシノボリを観察していると少しずつ見分けられるようになりました。

見分けるポイント

は背びれです。

オスは先端がシュッと尖っているのに対し、

メスの先端は丸くなっています。

魚のオスとメスの見分け方は難しいという印



オス



メス

象が強いかもしれませんが、ルリヨシノボリをきっかけに、さまざまな生きものの特徴から見分けてみるのも面白いかもしれません。

(原いつき)



シンジコハゼのひみつ



なまえ：シンジコハゼ

生息地：島根県から富山県の日本海沿いの河川や湖沼

全長メス6cm、オス5.5cm。ハゼ科ウキゴリ属に分類され、宍道湖のようなうすい塩分の汽水域などに生息しています。宍道湖で発見されたため、「シンジコハゼ」と名付けられました。

上皇陛下とシンジコハゼ

魚類学者でもある上皇陛下は、ハゼの分類をご専門とされています。以前、宍道湖でジュズカケハゼとされていたハゼをご覧になった際に、「少し違うのでは」と感じられたそうです。後日、研究者があらためて調べたところ、別の種類だと分かりました。そのハゼが「シンジコハゼ」です。

シンジコハゼのメス

3月から4月にかけて、シンジコハゼのメスの体は、全体が黒っぽくなり、黄色の横じまが現れます。これは、繁殖期のメスだけに見られる婚姻色で、まるで別の魚のような美しい姿になります。



シンジコハゼのそっくりさん

シンジコハゼ、ジュズカケハゼ、ピリンゴの3種の姿はともそっくりです。

眼上管の違いで見分けることができますが、飼育スタッフでも一見ただけでは判別できないときがあるほどです。

(松本千優)



眼上管の開孔は2対

眼上管の開孔はなし

眼上管の開孔は3対

※中坊徹次 編(2013) 日本産魚類検索全種の同定 第三版を参考に作図

イベント報告

～「フグヨーヨーをつくろう！」編～

5月3日～7日に、第53回特別展に関連して、フグを模したヨーヨーづくりのイベントを開催しました。切り分けたパーツを貼り合わせて、コロンと可愛く工作してもらいました。できあがったヨーヨーたちは、同じパーツにもかかわらず、お客様によってそれぞれ表情がちがってました。たくさん遊んでもらえると嬉しいです。



(大山淳子)

ゴビウスニューズレターしまねっ湖 No.76

発行日/2023年6月15日

発行/島根県立宍道湖自然館ゴビウス(管理運営:ホシザキグリーン財団)

〒691-0076 島根県出雲市園町1659-5

TEL 0853-63-7100 FAX 0853-63-7101

URL www.gobius.jp/ E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示

氏名または名称:公益財団法人ホシザキグリーン財団

事業所の名称:島根県立宍道湖自然館

動物取扱業の種別:展示

登録番号:第073102040号

登録年月日:2007年5月17日

登録有効期限:2027年5月16日

取扱責任者:桑原友春